6

身につく力：言葉で遊ぶ

せんりゅう 川柳をつくろう 1

月　　日

俳句も川柳も、短歌から生まれた日本の文化であり、五・七・五の十七音でよまれるところは同じです。

俳句と川柳のちがい

俳句・・・季語が必要。自然をテーマにすることが多い。「や」「けり」「かな」などのように文語で表現される。

川柳・・・季語はいらない。人間や社会に関することをテーマにする。「だ」「です」などの、日常会話に近い口語で表現する。

川柳の歴史

今からおよそ260年前の、江戸時代にできた。

・俳句は、主に身分の高い人やお金持ちがよんだのに対し、川柳は、主に庶民（しょみん）によってよまれた。

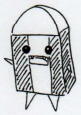
・川柳（せんりゅう）という名称は、柄井八右衛門（からいはちえもん）という人の俳号（はいごう）、無名庵川柳（むみょうあんせんりゅう）に由来する。

江戸時代の川柳　　寝ていても　団扇の動く　親心

本降りに　なって出ていく　雨宿り

川柳をつくる時のポイント

・人間や社会（人間同士のつながり）をテーマにしよう。
・人の悪口にならないようにしよう。
・なるべく五・七・五のリズムでつくろう



❶ 五・七・五の十七音になるように川柳の続きを考えましょう。

	五	七	五
にんげんは		魚みたいに	泳げない
よのなかは		スマホケイタイ	花ざかり
このごろは		スピードばかり	もてはやす

❷ 「学校生活」をテーマにして川柳を考えましょう。

れい点を　六十点に　書きかえる
先生の　通知表は　「よくできた」